

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0867
 住 所 川崎市川崎区扇町12-1
 氏 名 川崎天然ガス発電株式会社
 代表取締役社長 木村 博一 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎天然ガス発電株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区扇町12-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	F	電気・ガス・熱供給・水道業
	中分類	33	電気業
主たる事業 の内容	天然ガスを原料とした発電		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	869,438	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

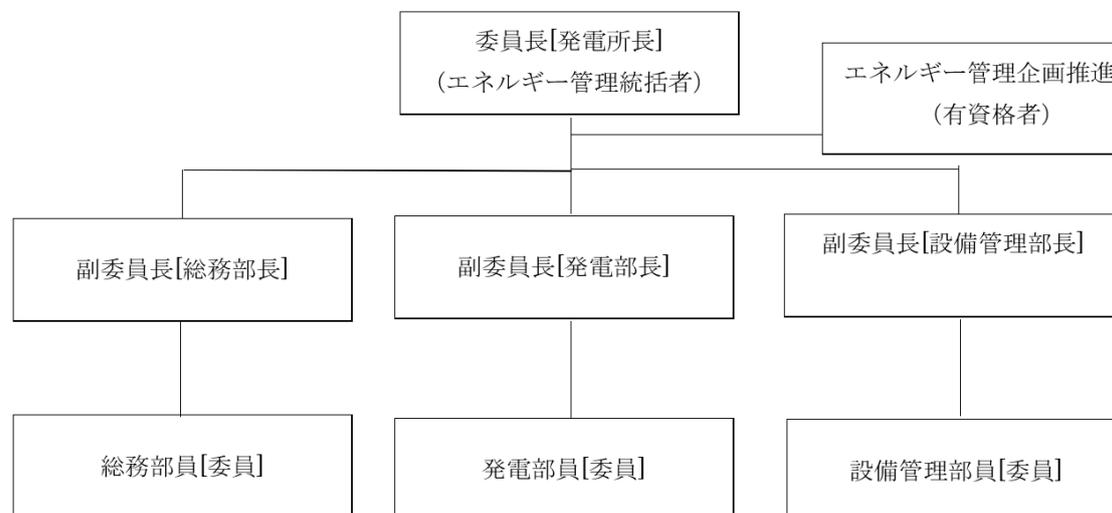
経営層をトップとして温室効果ガス排出量の削減に組織的に取り組み、継続的な温室効果ガス排出量削減活動を行う。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

- ・温室効果ガス発生量の少ない液化天然ガスを燃料として使用し、また最高レベルの高効率発電を行う発電計画を定め、これを実行する。これにより単位電力使用量当たりの二酸化炭素排出量が少ない電力を供給し、電力使用段階での二酸化炭素排出量対策に寄与する。
- ・運転管理、設備維持管理の目標を明確に定めこれを達成することにより、安定的に高効率電力を共有する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

・エネルギー管理統括者を委員長とし、エネルギー管理企画推進者を含む体制を定め、各部から選任された委員による組織を構築している。



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2021				年度
目標	年度	2024				年度
基準	排出量	(実) 42,352 (調) 42,368	t-CO ₂	(実) (調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実) 42,218 (調) 42,234	t-CO ₂	(実) (調)	t-CO ₂	
削減量		(実) 134	t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実) 134	t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実) 0	t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実) 0.3	%	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量					
原単位の単位					
基準年度の値					
目標年度の値					
削減率		%		%	

ウ 目標設定に関する説明

<p>1. 2018年度から実施している所内蛍光灯のLED化による温室効果ガス排出量削減効果分について、2022～2024年度も目標として設定した。</p> <p>2. 2022年に循環水ポンプの省エネコーティングを実施する予定のため、温室効果ガス削減の目標として設定した。</p> <p>※基準年度（計画書を提出する年度の前年度）である2021年度は、部分負荷運転やDSSが増えたため、発電ユニットの運転時間が減少（燃料使用量が減少）し、温室効果ガスの排出量が大きく減少した年であり、今後運転時間が増加すれば、温室効果ガス排出量の増加が予想される。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

<p>1. 所内蛍光灯のLED化 期の途中に交換する蛍光灯の削減効果が削減数値に反映されるのを半分と想定し、以下の様に設定した。 2022年度交換分：6トン、2023年度交換分：3トン、2024年度交換分：1トン 計10トン</p> <p>2. 循環水ポンプの省エネコーティング 2022年度124トン</p>

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	<p>1. 所内蛍光灯のLED化 所内蛍光灯のLED化を推進し、構内照明電力使用量を削減する。</p> <p>2. 循環水ポンプの省エネコーティング 循環水ポンプの省エネコーティングを実施し、温室効果ガス削減の目標とする。</p>
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<ul style="list-style-type: none"> ・会議室・給湯室・更衣室・廊下・トイレの蛍光灯照明の不使用时の消灯を徹底した。 ・2階執務室照明の昼休み時間帯の消灯を実施した。 ・空調は、夏季冷房28℃、冬季暖房20℃を目安に無理のない範囲で設定した。
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	川崎天然ガス発電は、ENEOSと東京ガスが出資する発電会社で、「高効率な天然ガス火力による発電」に専念する位置づけとなっている。再生可能エネルギーについては、両出資会社が発電事業全体のポートフォリオの中で検討している。このことから、再生可能エネルギー源等の利用は両出資会社を中心となり検討を行い、川崎天然ガス発電は「高効率な天然ガス火力による発電」に専念する。
風力	×	同上
バイオマス	×	同上
未利用エネルギー	×	同上
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

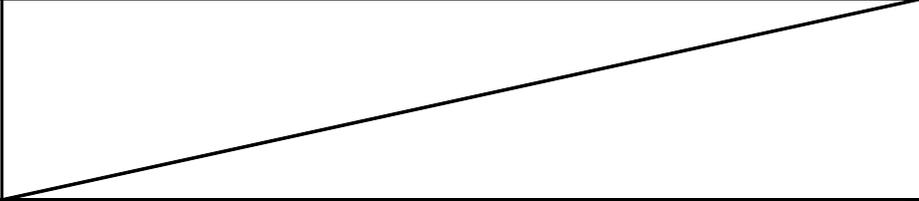
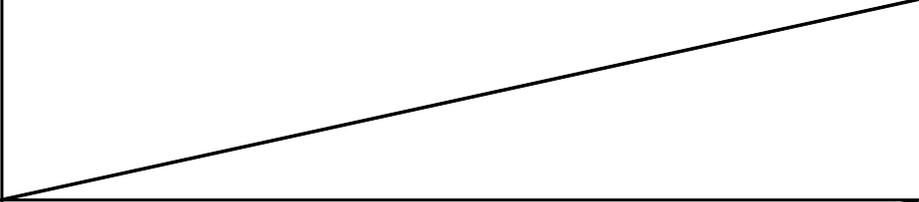
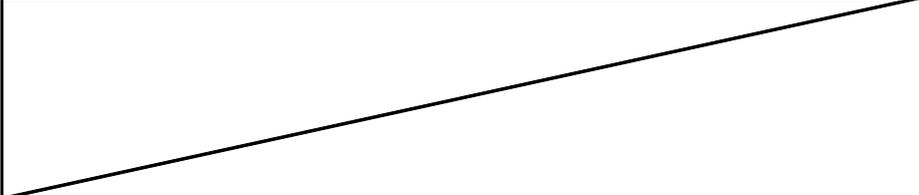
種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

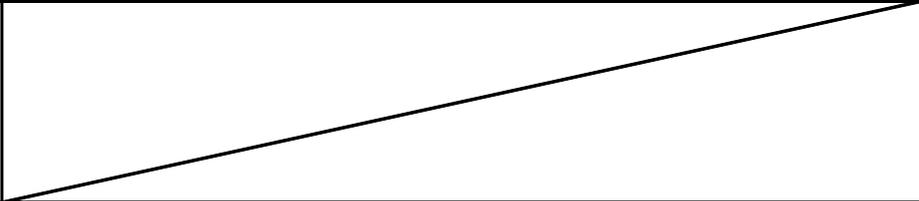
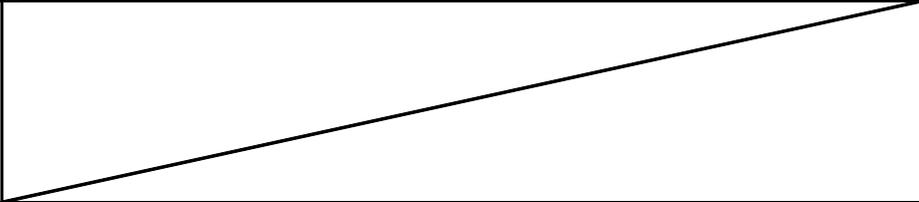
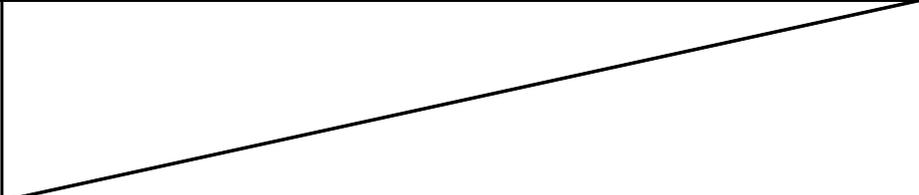
(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	○	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	42,352	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

869,438	K L
---------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎天然ガス発電株式会社	川崎市川崎区扇町12-1	42,352 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂